

昭和大学附属烏山病院だより

# あおぞら

〔発行責任者〕 病院長 岩波 明  
〔編集責任者〕 広報委員長 常岡 俊昭  
〔住所〕 〒157-8577 東京都世田谷区北烏山6-11-11  
〔電話〕 03-3300-5231(代表)

第170号

[2021年10月31日発]

## 臨床研究開発学

昭和大学薬学部 臨床薬学講座 臨床研究開発学部門 准教授 肥田 典子

皆様、はじめまして。2021年9月から昭和大学薬学部臨床薬学講座臨床研究開発学部門の准教授を拝命しました肥田典子です。私はこれまで、医学部薬理学講座臨床薬理学部門の教員として、また烏山病院内の臨床薬理研究所にて医薬品開発に関連する業務に取り組んでまいりました。今回の「あおぞら」では、臨床研究開発学部門の研究内容をご紹介します。



臨床研究開発学部門は、臨床薬理研究所（入院棟2階）で研究活動を行います。

皆さんにはなじみが薄いかもしれませんが、臨床薬理研究所では、さまざまな医薬品についての治験や研究が行われています。治験とは、「薬の候補」を健康な成人や患者に使用して、効果や安全性、治療法（適正な投与量や投与方法）などを確認する目的で行われる「臨床試験」のことです。治験以外にも、患者さんへ最新の医療を提供するとともに、病気の診断、治療の改善を常に試みるために、さまざまな研究がおこなわれています。研究により新しい治療法を確立することは大学病院をはじめとする医療研究機関の使命であり、患者さんのご理解とご協力によって、皆さんが日ごろ使用しているお薬、新しいお薬の効果や治療法が得られています。

臨床研究開発学部門では、特に、小児、高齢者、嚥下困難者などにおける未解決の医療上の問題（アンメットメディカルニーズ）の解決を目指し、患者さんの「不便」や「困った」を解決できるような研究成果を出していきたいと思っています。例えば、小さい子供たちは、錠剤をのむことができませんが、粉薬も味が苦かったり、量が多かったり、上手に飲むことができません。水薬（シロップ）は、計量に手間がかかるほか、持ち運びが不便です。患者さんが飲みやすく、使いやすい薬を開発することも大切な目標にしています。

このような研究を通して、烏山病院から未来の医療に貢献し、よりよい医療を患者さんに提供するための研究を日夜行ってまいります。研究成果を楽しみにしていただければ嬉しいです。

# スーパー救急病棟オンライン自助グループ導入

A4 病棟 看護師 塚越拓美

依存症とは不安や嫌なことを忘れるために特定の行為を繰り返すことで、脳をコントロールする機能が弱くなり、自分の意思とは関係なく「やめたくても、やめられない」状態のことを言います。お酒や薬物、ギャンブルなどを依存物質・行為を優先してしまい、食事が摂れなくなる、仕事に行けなくなる、周囲との関係が悪くなる、など生活に支障がでてきます。依存症は誰でもなる可能性があります。もちろん、私自身もです。依存症は適切な支援があれば、回復することができます。正直になんでも話せる場所があり、孤独にならないことが必要とされています。その安全で安心な場所が自助グループです。自助グループとは何かしらの生きにくさを感じている方々がお互いに励まし合い、支え合って乗り越えていくことを目的とした集まりです。評価も非難もしない「言いつばなし、聞きつばなし」でそれぞれが話をします。仲間の経験を聞いたり、自分も話すことで今まで気づかなかった感情を体験したり、自分の話が誰かの役に立てることを実感し、自己肯定感を上げることにも繋がります。私も時々参加させて頂いています。今ではオンライン自助グループが始まり、気軽に参加できるようになりました。

スーパー救急病棟では、依存症と診断され、初めて入院してくる患者さんが多い病棟です。また、うつなどの診断で入院してきますが、実はその影には依存症の問題を抱えている方もいます。入院後は家族や友人から離れ、孤独が一層深まります。また、医療者に正直に話すと入院が長期化したり、薬が増やされたりと本当のことを話すことができない患者さんが多いと感じています。そのため、入院初期に自助グループに参加し、同じ体験をしている仲間に繋げることが回復への近道だと考えていました。

私が勤務している病棟では、プライバシー保持などの目的から携帯電話の持ち込みが禁止されていました。そのため、オンライン自助グループに参加することができませんでした。回復に必要不可欠、唯一無二の存在である自助グループにどうしても繋がりたいと思い、病棟スタッフと相談し、自助グループ参加時のみ携帯電話・タブレットの使用ができるようになりました。導入したことによって、自助グループ主催者の方々に喜んで頂けたり、他施設のスタッフから関心を持って頂いたことが、私の自己肯定感を上げてくれることになりました。まさかの産物です。私自身、知識や経験も不十分でたくさんの支援者の方にも相談し、ご協力を頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。今後も多くの自助グループに参加し、私の生きにくさと向き合い、克服していきたいと思います。

# 2021 年度秋季公開講座

2021年10月23日開催の公開講座では「発達障害における不安とうつ」をテーマにお話をしました。成人の主な発達障害には2つあり、自閉スペクトラム症（ASD）と注意欠如・多動症（ADHD）があります。当院は2008年より成人発達障害を対象とする専門外来、デイケアプログラムを開設し、以来多くの患者さんにご利用頂いています。最近の傾向としては、当初多かったASDだけでなくADHDの診断割合が増えているという傾向があります。

うつ病と不安障害については、パニック障害、社交不安障害、強迫性障害、心的外傷後ストレス障害（PTSD）などについてお話ししました。不安・うつには共通して脳の扁桃体という部分に関係しており、不安を抱えること、それ自体がストレスになることについて解説しました。

発達障害と不安障害・うつ病の併存割合は多く、逆に不安、うつを主訴に来院される患者さんを診る場合には、当初より発達障害を念頭に置くことが必要になる場合もあります。ADHDでは保険適応のある治療薬が3種類ありますが、それ以外にも抗うつ薬や抗精神薬などを併用して治療を行います。講演では、服薬だけでなく日常でも工夫できるポイントなどについて触れました。講演後は多くの皆様から活発に質問を頂き、この分野の関心の高さが印象に残った次第です。ご参加いただいた皆様、会場の設営にご尽力いただいた職員の皆様ありがとうございました。

精神医学教室 准教授 音羽健司

公開講座にて、鳥山病院デイケアで行っている発達障害をもつ学生を対象にした「学生グループ」について紹介いたしました。

大学生になると、高校生までと違って様々なことに対して自由度が高くなります。授業やゼミ、サークルなど人間関係が多様化し、自身で授業を選択したり、レポートや卒業論文などは自分で計画を立てて予定管理する必要も出てきます。それまでは問題なく過ごしていた方も、大学生になって初めて、発達障害特性に困らされてしまうこともあります。

学生グループではニーズ調査を基に、「自己理解編」、「コミュニケーショントレーニング編」、「就職活動準備編」の全11回でプログラムを作成、実施しております。プログラムでは、知識や対処法を学ぶだけでなく、同じような困り感や似た特性をもつ仲間と出会い、ともに支えあえるピアの関係を築く時間となっているように思います。実際に、プログラムに参加した方の感想にも「悩んでいるのは自分だけじゃないと思った」、「今まで誰にも分かってもらえないと思って話せなかったことを、ここでは安心して話せて嬉しかった」などが挙がっており、安心して自分を出せる居場所があることが特に大切なのかもしれません。

学生グループへの参加を通して、大学と医療、社会への切れ目のない支援に繋がれば幸いです。ご参加いただいた皆様ありがとうございました。

臨床心理士 今井 美穂



就労準備プログラムは毎週火曜日の13時30分から14時50分まで実施しています。このプログラムでは、就活の基礎について学んでいます。例えば、仕事を始める際の一日のスケジュールや普段の生活リズムの整え方について学んだり、求人票の見方を知ること等を行っています。

私が特に印象に残っているものは身だしなみについてです。以前、正装で参加する会議でネクタイを忘れてしまったことがあったので、就活時はより意識をしたいと思います。

次に印象に残っているものは履歴書の書き方です。なぜなら、経歴や資格の書き方について学べたからです。

私は現在、大学に通っており、キャリア支援センターの先生からアドバイスを受けつつ積極的に就活説明会に参加しているので、それを活かして筆記試験や面接にも真剣に取り組みたいです。



## 総合サポートセンター

～受診・入院のご相談～

受付：月曜日～金曜日・8時30分～17時

土曜日 8時30分～13時

電話：月曜日～金曜日 03-3300-5329

土曜日 03-3300-5231

◎初診受付：月曜日～土曜日・8時30分～11時

◎休診日：日曜日・本学創立記念日・年末年始

《9月》 入院(前月) 外来(前月)

◆延患者数 8,565(8,849) 5,913(5,693)

◇一日平均患者数 285.5(285.5) 246.4(227.7)

◆診療実日数 30(31) 24(25)

## 【編集後記】

コロナに追われた2021年も終わりに近づき、来年はどうか焦りにも似たなんともいえない感情が湧き出てくるそんな思いがあります。緊急事態宣言が解除となりましたが、自分自身としてはそれによりなにかが変わるということはなく、あまり気を緩めすぎないように、行きたいところややりたいことを焦らずクリアしていければと思っています。オンラインやZoomに早く適応しなければ…。

(広報委員 石坂)

広報委員会では、皆様のご意見ご感想をお待ちしております。連絡先は [k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp](mailto:k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp) となります。

